# 『逃げるって？ 憲兵が銃を持って監視しているのに』（堀内稔、信長たか子訳）の出版、そして、日帝強制動員被害者支援財団の関連書籍紹介（『むくげ通信』311 号 20220327）　飛田雄一

本がでた。堀内稔さんと信長たか子さんの翻訳によるものだ。日帝強制動員被害者支援財団（韓国）発行の翻訳叢書シリーズの⑫口述記録集『逃げるって？憲兵が銃を持って監視しているのに』（A5 327 頁 2021.12）だ。「日帝強占下強制動員被害真相究明委員会」が 2006 年に発行した本の翻訳である。

まさに「口述記録」で、方言をそのまま収録したもので、翻訳はたいへんだったと思う。堀内さん、信長さん、ごくろうさまでした。

2004 年 9 月、韓国では「日帝強占下強制動員被害真相糾明等に関する特別法」が成立した。[1] それを受け大統領直属の機関として「日帝強占下強制動員被害真相究明委員会」が作られて調査活動が始まった。その委員会は、多くの書籍、調査報告書を発行したが、2006 年に発行された本書もそのひとつだった。

昨年 12 月には、次の 2 冊も同時に発行された。

- 翻訳叢書⑩報告書『日本地域の炭鉱鉱山における朝鮮人強制動員の実態－三菱鉱業（株）佐渡鉱山を中心に』B5 180 頁 2021.12 （韓国語版 2019 年）
- 翻訳叢書⑪報告書『靖国神社「韓国人」合祀経緯・合祀者名簿の真相調査』B5 91 頁 2021.12（韓国語版 2007 年）

韓国委員会発行の韓国語書籍は優れたものであり、日本語版の発行が期待されていた。日本の強制動員真相究明ネットワーク（共同代表／庵逧由香、飛田雄一）[2]では日本語翻訳協力委員会をつくり、多くの方々の協力を得ながら翻訳作業を進めている。今回の『逃げるって？』は、その中で神戸グループが翻訳を引き受けたものだ。兵庫県関連の証言が含まれているのが引き受けた理由だが、内容は以下のとおりである。

■山口県
金甲得「炭鉱が海の底に入り込んでいるんだ」沖之山炭鉱、
金東業「天命で生き延びたんだ」本山鉱山、
朴丁出「捕まって行くのに何ができる!」炭鉱
■兵庫県
関丙珠「ちいさな握り飯ふたつしかくれない」久保田鉄工、
崔炳淵「引率は高等係刑事がした」川崎重工業造船所、神奈川県
朴來鉉「死ねといわれれば死ぬマネまでしなければならない」日本鋼管鶴見製鉄所
■岩手県（いずれも日鉄鉱業釜石鉱山）
明由鎮「頭にいまも爆撃の傷が」
宋栄彬「私は年が若く、坑の中に入らなかった」
■新潟県（いずれも電気化学工業青海工場）
金東烈「ポンポン船に乗って帰る途中、海の幽霊にな

[1] 飛田「韓国強制動員真相究明法、その後」、むくげ通信 210 号（2005 年 5 月）参照。

[2] 真相究明ネットのホームページは、https://www.ksyc.jp/sinsou-net/ 情報が豊富である。研究集会も開催しており、飛田もむくげ通信でその様子を紹介している。２８７号（２０１８年３月「３月の沖縄は、あつかった！―第 11 回強制動員真相究明全国研究集会、などなど―」／２９４号（２０１９年５月）「第 12 回強制動員真相究明全国研究集会 2019.4.6-7 in 高崎」に参加して」など。

るところだった!」
金伯換「わしらはみな死ぬ、そう思っていたよ」
金鳳来「急に火の玉が落ちて来て」
金青松「監獄の罪人のように扱われた」
朴基成「船がないから闇船で帰ってきた」
■北海道
朴龍源「零細民で、配給を断つというので仕方なく行った」北海道炭鉱汽船夕張炭鉱

兵庫県のおふたりについて、以下紹介する。

関丙珠さんは、聞き取り当時 94 歳。1913.9.19、忠清北道清原郡北一面立上里で出生、1945.2.12、久保田鉄工に 33 歳のときに動員され、1945.11 に帰国している。本書には、「面談後記」というのがあって調査員の感想等が書かれているが、その記述がその時の雰囲気をよく表している。以下のようなものだ。

「2005 年 10 月 7 日、ソウル市恩平区水色洞の口述者の自宅で口述面談を実施した。どしゃぶりの雨の中、事前の約束時間より 30 分早く、口述者の自宅に到着した。口述者はアパートで息子さんとふたりで暮らしていた。／口述者はひとりで昼食中であったが、調査官らが入ると食事を中断し、申し訳なかった。口述面談実施のため 2 名の調査官がさらに同行し、面談者は 4 名になった。面談は、代表面談者である権美賢調査官が主となった。口述者は 93 歳だったが、年齢のわりにキリツとし、記憶力もよかった。口述者はほかの被害者に比べて歳がいった 30 代で動員され、他の徴用者に比べ現地の状況に適応して過ごしたと見られる。口述内容は主にその体験談であった。」

たとえば以下のような質問／応答がある。

「支署長は多くの人を徴用に送ったようですね？

もちろん。徴用にたくさん送ったこと以上にひどいことをした。人が性悪になり、食料なんかもやたら持っていって、朝鮮人が食べられなくしたんだ。私が行く時、嫁にこう言った。巡警がいくらひどいといっても、私の夫が日本の報国隊に命を惜しまず行ったのだから、すこしは助けてくれなければならないと言えと。幼児をおぶって行かせたんだ。嫁は私の言葉どおりしたから、私たちにはよくしてくれた。配給も十分もらった。夫が日本の報国隊に行って、家族が飢え死にしそうだから助けてくれ、と言ったおかげで。私らの所には配給なんかもきちんとくれて、食べていくことができた。支署長から私の家族が配給をもらっているなんて村の里長が知らずにはできないことなのに、村中の人はおかしいと思った。悪いやつから（配給をもらって食べていると)。そうやって私たちは暮らした。私も嫁も元気で、そして解放の年に帰ってきた。」

久保田鉄工所では、空襲も体験している。

「ある時、火をたいて寝ている時に空襲があった。あの B29 っていうのか。大きいのが爆弾をたくさん落として、工場の外にそれが落ちた。ひょっとしたら私も死ぬところだった。出てみるとものすごく大きな穴があき、そのふちが大きく盛り上がっていた。」

また、帰国の時期に水害にもあっており、以下のようの口述している。

「もう解放になって家に帰るというある日の夕方、日本人らが注意を呼びかけた。「9 時になると台風がきて風がひどく大雨になる」とのことだった。私は 2 階にいたのだが、8 時半頃だったか？風が吹き始めた。そこは畳部屋だったが、分厚い畳がふわふわ飛び上がり、戸がガラガラと落ちてたまったもんじゃない。外を見ると水がこれくらいまできている。ここにいてはだめだと思って下に降りた。降りて人の声がする方へ走っていった。アイゴ！私の同郷の人がみんなそこにいた。初めから分かっていたんだ。私は未練がましくそこに居たら死ぬところだった。帰ってみるとその 2 階建ての家がすっぽり水につかっていた。アイゴ！その後、雨がひどく降って、私たちは堤防の土手に、とりわけ高い土手に行った。古い 2 階建ての家はすっかり水につかり、子犬、豚、缶なんかみんな流されていた。ぷかぷか浮いて。まかり間違えぬ所だった。そうして命が助かった。そんなひどい苦労をたくさんした。」

兵庫県のもうおひとり、崔炳淵さんは、1923.3.23、忠清南道瑞山郡近興面新津島里で出生、1941.10、兵庫県川崎重工業の造船所に 24 歳のころに動員され、旋盤として働かされた。1946.3、帰国した。「面談後記」に次のようにある。

「2005 年 10 月 19 日、忠清南道泰安郡近興面の口述者自宅の居室で面談者と副面談者、面職員、おばあさんなどの立ち会いの下で口述面談を実施した。崔炳淵おじいさんの自宅は、裏側に海が見える漁村にあって、夫人とふたりだけで仲睦まじく暮らしていた。おじいさん、おばあさんとも、とてもさっぱりした性格であり、今まで訪問した中で最も清潔に家の中が整頓されていた。口述は秋の日差しが温かく居室に降り注ぐ午

後の物静かな時間に落ち着いて進められたが、時折、外から電話があり、多少口述を妨げることもあった。口述者が事実確認にとても積極的であり、誠実に対応してくれ、聴取作業の大きな助けとなった。時々、事実の記憶をたどろうと、しばらく沈黙する場面があった。ただ惜しまれる点は、高齢のために発音が不正確であり、きちんと意味を捉えられない場合があったことである。」

こんな記述がある。

「日本のどこに行かれましたか？

日本に行くと神戸市灘区スマテラ町だった。スマテラ町。都市に行けばなんとか区庁とかいう式で東区とか西区とかがある。そこは灘区です。灘区にスマテラという寺があって、寺の名前をとって地名にしたんです。そこに行くとみんな新築だ。私たちを収容する建物は。行ってみると私たちだけではない。すでに来ていた人もいる。」このスマテラ町について調査官は、「船寺町と推定。須磨寺ならば須磨区」と注を入れている。

次のような記述もある。

「工場にいる人はみんな朝鮮人でしたか？

そうです。朝鮮人たちがみんな警察署に来たんです。「私たちは地方から出てくるとき、この人たちを信じてついて行った。この人たち一緒に行けといわれてついてきた。私たちはこの人たちと一緒に居られるようにしてくれ」

4,500 人がそう話をしてくれたんですか？

はい。4,000 人かもしれない。話では 4,000 人以上になると聞いたが、実際の数字はわからない。4,000 人以上になるという話だけは、聞いた。とにかく全部で 4,000 人が集まってきた。その人たちは私たちが引っ張られて行ったとことを、どこかで聞いてきたようだ。だから止めようにも止められない。それで捜査主任、司法主任という人がここから出るようにと決着をつけてくれた。「今日は私が当直だから一晩泊まって遊んで行きなさい」といってくれました。それで私たちは「手錠をはめたままで遊ぶなんてとんでもない。なんであなたと遊ばなければならないのか？ 罪のない人間を捕まえて留置しょうとしているのではないか」といった。すると「あの人たちには帰ってもらい、話をしよう」という。それですぐに「そんなことできない。どうせ私たちは死ぬんだ。あなたは内鮮一体、内鮮一体と言っているが何をしてくれたのか？ あなたたちは私たちに何をしてくれた。お腹がすかないようにしてくれ、量を増やしてくれ。それを求める者に手錠をかけたから、5,000 人が抗議しているんだ。だからできない」と事情をうまく話した。するとしかたがないから出て行け、文句をいわずともかく早く宿舎に帰れという。私たちは明日 9 時には工場に行くので、一緒に歩いて帰ってきたんです。そしたらみんな何も言わずにさっといなくなったんです。驚きましたよ。」

また崔さんも空襲にあっおり、次のようにその様子を語っている。

「爆撃になればどうしますか？

夜寝ているときに東の方から米軍の飛行機が空襲してきたといったり、西側から来たといったり。まったく訳がわかりません。どこから来るのか分からないんだ。そいつらがここから来るといえば、そこから来るし、そこから来るといえば、そこから来るんだ。どこから来るのかまったく分からない。そして 1 編隊が来る、2 編隊が来る、3 編隊がくるといっても、何も分からない。行ってしまえば。でも不思議なことに、朝鮮人の宿舎には 1 発も落ちたことがなかった。」

この『逃げるって？』は、真相究明ネットで取り扱っている。購入希望者には、翻訳活動支援金（送料こみ）として 1000 円で配布している。書籍名を記入のうえ、前金で郵便振替＜00930-9-297182 真相究明ネット＞に送金してください。

●

先に書いたように『逃げるって？』とともに昨年 12 月『日本地域の炭鉱鉱山における朝鮮人強制動員の実態－三菱鉱業（株）佐渡鉱山を中心に』が発行された。佐渡鉱山がユネスコ世界遺産問題で注目を集めているので、簡単に紹介しておく。奥付にある研究者等は以下のとおりである。

日本語翻訳協力委員会・広瀬貞三、竹内康人／最終監修・許光茂(富平文化院常任研究委員)／研究参加者・責任研究員 鄭惠瓊(ARGO 人文社会研究所)、研究員 安海龍(アジアプレス)、研究補助員 李ヘミン(高麗大学校)

目次は、以下のとおり。

Ⅰ　調査の概要と方法
Ⅱ　日本の炭鉱・鉱山の基礎状況
Ⅲ　三菱鉱業㈱佐渡鉱山への朝鮮人強制動員
Ⅳ　調査の成果と活用方案

Ⅲ章には、次の内容が含まれている。
１三菱－戦争で成長した日本最大の財閥
２三菱鉱業(株)における炭鉱.鉱山の運営状況
３名簿から見た佐渡鉱山への朝鮮人強制動員
1)佐渡鉱山の朝鮮人鉱夫名簿の微視的分析－名簿の構成と内容
2)佐渡鉱山の朝鮮人供託金関連名簿
3)委員会被害調査名簿
４佐渡鉱山に動員された朝鮮人鉱夫の体験
５アジア太平洋戦争期における佐渡鉱山への朝鮮人動員過程と労働実態一鉱山から地下工事場まで
1)新潟県における朝鮮人労務動員作業場の状況
2)江戸時代の佐渡鉱山
3)日本による強制併合後の佐渡島の在日朝鮮人
4)佐渡鉱山における朝鮮人強制動員の実態一鉱山から軍工事場まで

「活用方案」には以下のようにある。
「本研究によって出された結果は、今後、歴史文化コンテンツによる方法で世界の普遍的価値の基準に沿った形で活用できる。歴史文化コンテンツによる活用方案とは一般市民が歴史に出会う窓口である。一般の人々は学者のように史料を調べたりするのではなく、他人が解析し、想像力というフィルター(小説家の言葉、写真家のレンズ、漫画家の絵)を通して伝達された過去の表現に接する。歴史文化コンテンツにより、記録を積極的に活用でき、歴史を復元し再現できる。フィールドワーク、多様なコンテンツを通じて、人々を歴史の真実に導くことができる。そのため、本報告書の歴史文化コンテンツによる代案の提示は、韓国社会はもちろん今後日本社会にも有用であると考える。

歴史文化コンテンツでは文化コンテンツの構築をすすめることが活用につながる。歴史文化コンテンツは、文化コンテンツの構築及びその活用を通じて歴史経験が蓄積され、その蓄積された経験を、市民の反戦平和•歴史教育へと循環させる機能を果たす。そこで、この報告を基礎とする文化コンテンツを構築し、活用方案をすすめる必要がある。文化コンテンツは出版コンテンツ、写真・動画コンテンツ、ウェブやモバイルコンテンツなどに分けられる。

本研究の結果について具体的にどのようなコンテンツを適用するべきか。まず、なすべきはアーカイブである。それを前提にしてのコンテンツの適用には、具体的に、以下の３つの方法がある。

第一に、現地調査資料(写真、口述など)を主題別(佐渡鉱山)にホームページと出版物で一般に公開する方法である。本報告書だけでなく、あらゆる学術研究の結果にも適用できる。

第二に、研究報告書に収録した情報をもとにWebコンテンツを制作する方法である。委員会の活動期間中にこれに類似した Web コンテンツを構築したことがある。Webコンテンツの制作に必要な基本情報は本報告書の付録に載せた886カ所の炭鉱・鉱山の現状目録である。これをもとに基本 Web コンテンツを構築した後、関連情報を追加することができる。地図から42都道府県の炭鉱と鉱山の作業場を特定した後、個別作業場をクリックして具体情報にアプローチする方法がある。一般市民が取得した現場情報も追加できるインタラクティブサービス機能を組み込めば、 Web コンテンツの内容はさらに豊かになるだろう。

886カ所ある強制動員炭鉱・鉱山の現場、その多くは今でも現場に残るアジア太平洋戦争の遺跡であり、その一部は世界遺産に登録され、活用されている。しかしながら、2015年、明治日本の産業革命遺産の登録を進める中で、日本は現場説明に歴史全体を盛り込まず、ユネスコ精神を守ろうとしない。そこで、本研究を通じて示した886カ所の炭鉱と鉱山の現場を被害国はもちろん、世界市民が共感できるように積極的に活用する必要がある。

第三に、佐渡鉱山を含めて学術研究委託の結果を活用した研究事業と新しいコンテンツの制作を支援し、市民と共に積極的に共有する方法である。学術行事開催、トークコンサートなど市民を対象としたプログラムを運営することもできる。フィールドワーク・プログラムを運用する方法や、一般市民が作成したコンテンツ（写真、UCCなどの動画)を公募し活用する方法もある。」

「付録」には、以下のものがある。「省略」は、日本語版では省略されているものである。
1.炭鉱・鉱山基礎現況目録(省略)
2.現地調査資料(韓国、日本)
3.1943 年金鉱山整備令による転換配置労務者名簿(省略)
4.佐渡鉱山関連朝鮮人名簿（朝鮮人煙草配給名簿。Excelファイルと写本)

5.佐渡鉱山関連朝鮮人名簿の写本(朝鮮総督府作成の指定年齢者連名簿)

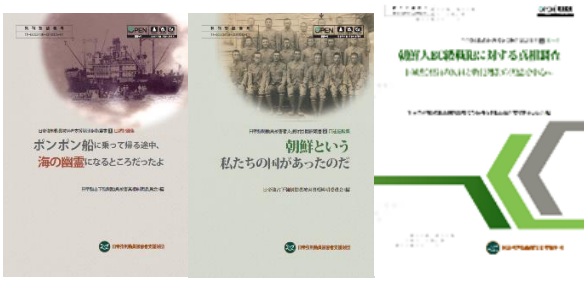
6.佐渡鉱山関連委員会被害調査名簿

日本政府は、明治産業革命遺産のときと同じように佐渡鉱山でも強制労働の事実を隠蔽しようとしている。しかし、「朝鮮人煙草配給名簿」は、その明白な事実の物証である。[3]

●

この翻訳叢書では、すでに紹介した『逃げるって？』、『佐渡鉱山』、『靖国』を含めて 12 冊が発行されている。残り 9 冊を以下に紹介する。価格は、同じく翻訳活動支援金（送料こみ）で、注文方法も上記と同じである。

- 翻訳叢書①口述記録集「ポンポン船に乗って帰る途中、海の幽霊になるところだったよ」A5 269 頁 2019.12（韓国語版 2006 年）1000 円
- 翻訳叢書②口述記録集「朝鮮という私たちの国があったのだ」A5 341 頁 2012.12（韓国語版 2006 年）1000 円
- 翻訳叢書③報告書「朝鮮人 BC 級戦犯に対する調査報告」B5 89 頁 2019.12（韓国語版 2011 年）500 円
- 翻訳叢書④「ハワイ捕虜収容所における韓人捕虜に関する調査」B5 83 頁 2019.12（韓国語版 2008 年）500 円
- 翻訳叢書⑤口述記録集『我が身に刻まれた八月 広島・長崎強制動員被害者の原爆体験』A5 601 頁 2020.12（韓国語版 2009 年）1000 円
- 翻訳叢書⑥口述記録集『聞こえてる？日本軍「慰安婦」12 人の少女の物語』A5 414 頁 2020.12（韓国語版 2013 年）1000 円
- 翻訳叢書⑦図録『写真で見る強制動員の話－日本・北海道編－』B5 変形版 182 頁 2020.12（韓国語版 2009 年）1000 円
- 翻訳叢書⑧報告書『端島炭鉱での強制動員朝鮮人死亡者実態調査（1939～1941）』A5 158 頁 2020.12（韓国語版 2009 年）500 円
- 翻訳叢書⑨報告書『南洋群島への朝鮮人労務者強制動員実態調査』A5 105 頁 2020.12（韓国語版 2012 年）500 円



[3] 真相究明ネット主催の「明治産業革命遺産の展示を問う！」ZOOM シンポジウム２０２１年５月２２日資料集（A4 54 頁）が同ホームページからダウンロードできる。印刷版を必要な方は、真相究明ネット郵便振替で 800 円（送料とも）を送金ください。強制動員真相究明ネットワークと韓国の民族問題研究所が共同で発行した『「明治日本の産業革命遺産」と強制労働』もダウンロード可。この冊子は神戸学生青年センター出版部より再販しました。アマゾンより購入可能です。また、佐渡鉱山のユネスコ世界遺産登録についての真相究明ネットの声明（2022 年 1 月 25 日）「日本政府は戦時の朝鮮人強制労働を否定するのではなく認知すべきである－佐渡鉱山（「佐渡島の金山」）世界遺産登録問題によせて－」も参照ください。